〝持続する環境の島〟淡路島実現へ

「あわじ環境未来島構想」とは

淡路島は淡路、洲本、南あわじの３市からなり、人口は約14万。西は播磨灘、東は大阪湾に面し、農漁業や観光業が盛んだ。地場産業としては線香、瓦、そうめんなどが知られている。島の歴史は古く、『古事記』や『日本書紀』に国生み神話の島として登場するほどで、朝廷に食材を献上した御食国（みつけくに）とも推定されている。こうした古代からの歴史・文化が香る島が今、日本が抱えるエネルギーや食料自給率、少子高齢化などの諸問題を解決する〝未来島〟として注目されている。2011年12月に「あわじ環境未来島構想」が日本再生を図る地域活性化総合特区の指定を受け、経済・産業の将来を左右しかねない重要な取り組みが始まっている。この動きを地元活性化にどうつなげていくのか、方策や在り方を門康彦淡路市長、竹内通弘洲本市長、中田勝久南あわじ市長、安倍茂淡路県民局長それぞれのメッセージで紹介する。さらに構想が指し示す未来の姿も読み解いていく。

◁◀◁

「あわじ環境未来島構想」は、淡路島をエネルギーと食を基盤として生命がつながる「持続する環境の島」とするのが目標だ。加えて産業創出や地域活性化、地域の合意形成、社会的受容、費用負担の在り方を含めて検証する社会実験の場とし、今後、同様の課題となる国内外の地域に貢献する示唆を得る狙いもある。具体的には「エネルギーの持続」「農と食の持続」「暮らしの持続」の三つの持続に関するさまざまな事業を国の地域活性化総合特区制度を活用し、3市7重点地区や全島横断で推進している。

10、20、40年後の成果や目標を事業ごとに設定しており、例えばエネルギーの持続では、エネルギー自給率を30年に10年時の7％から33％に高めるなどの目標がある。ほかにも二酸化炭素（CO_2）排出量、総人口、出生者数などにも具体的な数値を設定している。それらを推進するのが11年10月に第1回の総会を開いた「あわじ環境未来島構想推進協議会（瀧川好美会長）」だ。兵庫県や淡路島3市を中心に企画委員会や部会などで構成され、現在では島内外52の企業、大学、自治体や島52の関係団体（団体、NPO、住民グループなど）が実施主体として参加している。

14年5月に開かれた今年度の総会では、13年度の評価や現在の推進状況のほか、具体的な事業の活動状況を発表した。

進捗状況の中で「エネルギーの持続」の取り組みの一つに、風力・太陽熱・バイオマスボイラを組み合わせたバイナリー発電がある。12年9月に環境省の「地球温暖化対策技術開発・実証研究事業（補助事業）」として採択され、南あわじ市で実証実験が8月から本格化した。風力・太陽熱・バイオマスの三つの再生可能エネルギーを組み合わせて熱エネルギー源とし、沸点の低い媒体を加熱・蒸発させることで蒸気を発生させタービンを回してバイナリー発電をする仕組みだ。自然条件の変化にかかわらず安定した電力に加え、温水の供給を可能にしている。実験は東芝や神戸製鋼所などの民間企業が主体となって15年3月まで実施する。

一方、淡路市では「淡路夢舞台ニュータウン『サスティナブル・パーク』」構想が進む。同構想は総務省の委託事業「分散型エネルギーインフラ」プロジェクトで、13年度導入可能性調査事業、14年度マスタープラン策定事業の採択を受けた。構想は企業、医療、商業、住宅などを集積し、職と住を隣接させて時間やエネルギーを有効利用しながら暮らしを持続させる街（サスティナブル・パーク）とする計画だ。構想では昼間人口5000人、夜間人口1100人を目指している。具体的には災害時にも自立可能な分散型エネルギーインフラのコージェネレーション（熱電併給）発電所を地域内に設置する。加えて、新たな再生可能エネルギー源である潮流発電と合わせ、不足時に系統電力で補いながら、熱と電力を供給する。現在、マスタープランの策定を進めているところだ。

「農と食の持続」ではパソナが08年から展開する「パソナチャレンジファーム」事業がある。農業での起業を目指す人材を最長3年間契約社員として雇用し、淡路市野島地区で農業経営を学んでもらう事業で、現在は4人が研修している。卒業生で独立就農を希望する12人のうち、7人が淡路島内で就農し、4人が認定就農者になっている。

（本文、次ページに続く）

淡路島の3市長からメッセージ

全島挙げて活性化へ　メッセージ

兵庫県淡路県民局　安倍　茂　局長

魅力高める取り組み加速

淡路島は少子・高齢化や雇用の減少、後継者不足といったわが国の地方が共通する課題を抱えています。その一方で国生み神話の島として歴史的・文化的な価値の蓄積があり、豊富な日照、高い食料自給率、大都市圏に近接する立地条件など高いポテンシャルもあります。

これらの資源を生かして地域住民・企業・行政などが協働のもと、持続可能な日本を先導する地域活性化モデルを作ろうとするのが「あわじ環境未来島構想」です。「エネルギーの持続」、「農と食の持続」、「暮らしの持続」の三つの柱のもと「生命（いのち）つながる〟持続する環境の島〟」の実現を目指しています。「エネルギーの持続」では、島民から資金を募り、建設した住民参加型の太陽光発電所をはじめ、メガソーラーの設置は20カ所を超え、島内の再生可能エネルギーによる電力自給率は現在16％で、来春には約20％が見込まれています。

「農と食の持続」では2013年4月、南あわじ市に吉備国際大学地域創成農学部が開学し、大学との連携で地域農業の活性化が始まっています。「暮らしの持続」では交流人口の増加を図るため、空き民家の観光施設への再生や、14年4月の明石海峡大橋の通行料引き下げを契機に落語家の桂文枝さんによる誘客キャンペーンを展開し、多くの皆さまにお越しいただいています。

15年3月には「淡路花博2015花みどりフェア」も開幕します。全島を挙げて淡路島の魅力を高め、あわじ環境未来島構想の取り組みをさらに進めて活性化を図っていきます。

淡路市　門　康彦　市長

職住一体のまちを整備

大阪湾に浮かぶ淡路島の北部に位置する淡路市は、地域経済の動脈となる明石海峡大橋の開通以後、大きく変貌しています。

市は従来から地場産業として精密機器産業、線香産業、工芸産業などモノづくりに関わる企業が多いこと、また、明石海峡大橋開通により大都市圏である京阪神に時間的・距離的にも至便性が高まったことから、豊かな自然を生かした職住一体となる企業立地を推進しています。

現在、2000年に開催された「ジャパンフローラ2000淡路花博」の開催跡地である淡路夢舞台で新たなコンパクトシティー「夢舞台サスティナブル・パーク」の整備を進めています。ここでは、前述した「職住一体となったまち」をコンセプトに企業・医療・商業・住宅ゾーンの整備を進め、昼間人口5000人、夜間人口1100人のまちづくりを目指しているところです。すでに総合病院が開院し、関西初の調剤薬局・ドラッグストアを併設する24時間のコンビニエンス・ストアも開店しました。企業立地ゾーンには、大阪、神戸から3社の進出が決定し、そのうちの1社は本社と工場をこの地に移転してそれぞれ来年夏の操業を予定しています。

市では企業誘致プロジェクトチームを立ち上げ、今年4月から明石海峡大橋の通行料の引き下げ（普通車2300円から900円に）、市独自の企業誘致奨励制度などを広くアピールするため、企業訪問に積極的に取り組み、自然豊かな異次元空間・淡路市のPRに努めています。

洲本市　竹内　通弘　市長

結集・交流の場づくりへ

洲本市には技術をはぐくむ土壌があります。古くは産業技術の進歩に大きな役割を果たした永久磁石（MK鋼）を開発し、日本の十大発明家にも選ばれた三島徳七博士を輩出しました。明治期以降は、鐘淵紡績、三洋電機の企業城下町として発展を遂げ、市でも島内唯一の専門学科高校を設立して技術者を育成し、官民協働で発展に取り組んできました。そして現在、国による「あわじ環境未来島構想」の特区指定を受け「エネルギー（環境）」「農と食」「暮らし」の三本柱の切り口から、さまざまな産学官協働技術プロジェクト（洋上風力発電、完全電動漁船、亜臨界メタン発酵、バイオ燃料のカスケード利用など）が生まれています。

さらに地域と大学がつながる「域学連携」事業にも取り組んでおり、地域の資源や豊かな自然に大学の知見・技術を融合させ新たな事業展開をみせています。これらの各プロジェクトは一つひとつが洲本市の財産です。

しかし私は今、さらに大きな夢を見たいと考えています。「特区」の旗印の下、地元で技術を育んだ企業、市の企業誘致制度を活用して新たに技術を根付かせんとする企業、洲本市を技術の実証フィールドとして選定、来島する企業が集い、さらに大学の持つ知見が結集する。この結集・交流する場―プラットフォームの環境を整備することこそが行政の次なるステップです。これにより技術のシナジー効果が発揮され「洲本市発」のイノベーションが生まれることを期待しています。

南あわじ市　中田　勝久　市長

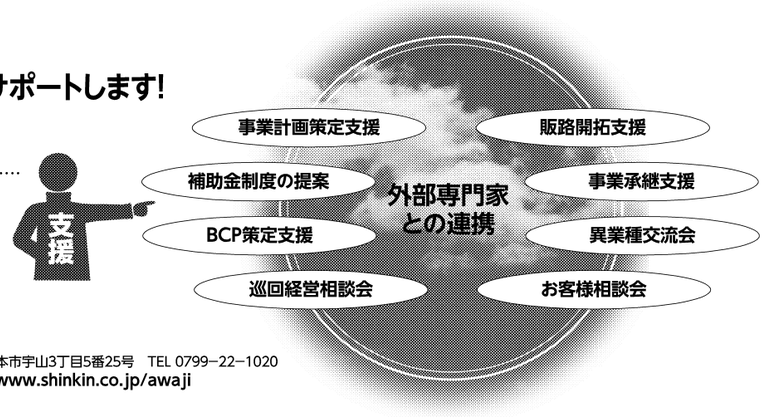
地元産品ファン増やす

南あわじ市は、ご存じのとおり、たまねぎ、レタスなどの全国有数の大生産地です。地域団体商標を取得した淡路島たまねぎをはじめ、淡路ビーフや淡路牛、淡路島牛乳などの乳製品、淡路島3年トラフグ、鱧や鯛など全国的ブランドとなった産品は数えきれません。

市ではさらなる農・畜・水産業の持続的発展と生産者の所得の確保、農・畜・水産物の良さはもちろん、500年の伝統を誇る淡路人形浄瑠璃などの文化、さらに世界遺産登録を目指す鳴門の渦潮や名勝慶野松原をはじめとする豊かな自然などの全国的な知名度の向上を図るため、南あわじ産品などの大型直売所や肉、魚、野菜など地元食材を使ったレストラン、情報発信施設を兼ね備えた「あわじ島まるごと食の拠点施設（仮称）」の淡路花博2015花みどりフェア（15年3月21日―5月31日）に合わせたオープンに向け、準備を加速しています。

また、施設の管理運営予定会社「あわじ島まるごと株式会社」は市内の生産者団体にとどまらず、全国農業協同組合連合会をはじめとするJAグループに資本参加をいただいた全国的なモデルとなる取り組みです。

市だけではなく、淡路島全体の生産者、生産者団体が一丸となり安全・安心な地元産品を提供していきます。南あわじ・淡路島産品の全国へのファン拡大や第一次産業を核とした地場産業や観光との連携による地域の活性化、ひいては南あわじ市の飛躍につながると確信しています。

中小企業の皆さん
ビジネス課題の解決を私たちがサポートします!
創業・新事業を考えているんだけど……
売上を伸ばすアドバイスが欲しいなぁ……
自社に合った補助金の提案・活用を教えてほしいなぁ……
後継者がいないどうしよう……
不動産の有効な活用方法はないかなぁ……
専門家のアドバイスが欲しいなぁ……
ビジネスセミナーを聞いてみたいなぁ……
いろんな企業の人達と交流してみたいなぁ……


今日も　楽しい　おつきあい
淡路信用金庫
兵庫県洲本市宇山3丁目5番25号　TEL 0799-22-1020
http://www.shinkin.co.jp/awaji

当社の看板息子です。
ムネ製薬は、日本でいちばん多くの種類の浣腸をつくっています。

累計出荷2000万本突破
※「コトブキ浣腸ひとおし」平成18年5月～平成26年5月までの累計出荷本数。
ジャバラ型浣腸といえば!
コトブキ浣腸ひとおし

〒656-1501 兵庫県淡路市尾崎859
TEL.0120-85-0107
http://www.mune-seiyaku.co.jp
ムネ製薬株式会社

淡路ワールドパークONOKOROは 今春30周年！
西日本最大の【ミニチュアワールド】
ONOKORO
淡路ワールドパーク
淡路ワールドパークONOKOROは、淡路島の地元企業
ツダ・淡路土建・ユーアールエー グループが運営しています。
淡路ワールドパークONOKORO
〒656-2142 兵庫県淡路市塩田新島8番5
TEL（0799）62-1192 FAX（0799）62-4664
www.onokoro.jp